

｜ 平成 22 年度 ｜

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

はじめに

平成22年度、びわ湖ホールは様々な新しい試みに取り組みました。なかでも注目されたのは「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の開催ではないでしょうか。「ラ・フォル・ジュルネ」は、フランスの港町ナントで1995年に始まったクラシック音楽祭で、造船業の衰退でさびれていたナントの町が、これで元気になったと言われていました。

日本では2005年に東京で始まり、5月の連休のイベントとして大変な賑わいを見せています。そして2008年には金沢に、2010年にはびわ湖と新潟に広がってきました。

ラ・フォル・ジュルネの人気の秘密はどこにあるのか。昨年の5月、びわ湖に来ていただいたお客様の生き生きとした表情にその答えがあるはずです。

クラシックのコンサートだけでなく演劇や舞踊にしても、行くのに敷居が高いとはよく言われることですが、ラ・フォル・ジュルネの時には、みんながその敷居を軽々と飛び越していることがよくわかります。

芸術的な公演に行くことは、いわば精神の冒険に出かけるようなものですから、いくばくかの不安や緊張が伴います。恐らくこれが高い敷居の正体でしょう。冒険に出かけるときには、ドン・キホーテにサンチョ・パンサがいたように、三蔵法師には孫悟空、猪八戒、沙悟浄が、タミーノにはパパゲーノが、千尋にはハクが付き添うものです。劇場に冒険に行くときは、家族であれ友人であれ、付き添って力づけたり、助けたり、批評をしたりする人が必要です。そして、たとえ一人で行くときであっても、実はもう一人の自分が付き添っているのです。マラルメのある詩に、私たちは二人だった、とあるように。

びわ湖ホール開館の前から活動している劇場サポーターは、舞台芸術の冒険に出ようとする人たちに付き添う人たちです。家族と、友人たちと、二人で、三人で、四人で、五人で………と誘いあって出かけることは、冒険をするための勇気を奮い起こすことであり、このことは舞台上で行われることを理解するのと同じくらい重要なことです。

そして、舞台が終わり劇場から出てきたあとも、同じ勇気を持って社会で活動できること、これが舞台芸術の大きな意義の一つであると信じています。劇場サポーターのますますの活躍を期待しています。

平成23年(2011年)3月

財団法人びわ湖ホール

理事長・館長 井上 建夫

目 次

平成 22 年度 劇場サポーター研修の概要

第 1 回 舞台芸術基礎講座〈オリエンテーション（舞台見学）編〉 …	1
第 2 回 舞台芸術基礎講座〈コンテンポラリー・ダンス編〉 ……………	2
第 3 回 舞台芸術基礎講座〈演出家編〉 ……………	3
稽古見学・鑑賞研修・その他 ……………	4

平成 22 年度劇場サポーター自主活動の概要 ……………	6
------------------------------	---

平成 22 年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱 ……………	7
---------------------------------	---

劇場サポーターの声 ……………	9
-----------------	---

平成22年度劇場サポーター研修の概要

第1回 舞台芸術基礎講座

〈舞台見学&主催事業説明〉

日 時 平成22年4月17日(土) 13:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 大ホール・研修室

■ あ い さ つ 井 上 館長

■ 2010年度のびわ湖ホール自主事業計画について 片 山 事業部長

■ 劇場サポーター活動について

■ 第15期サポーター自己紹介

■ びわ湖ホール大ホール施設見学



第2回 舞台芸術基礎講座 〈コンテンポラリー・ダンス編〉

日 時 平成22年10月9日(土) 14:00～16:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：「ダンスの変遷 -コンテンポラリー・ダンスってどんなもの?-」

講 師：すずな 松 あつこ 氏（舞踊ジャーナリスト）

講義内容：コンテンポラリー・ダンスの成り立ちを、クラシック・バレエの誕生や、バレエ・リュスやバランシンの登場によって生まれた大きな流れの変化、そして日本が生み出した暗黒舞踏のことなども踏まえてお話しいただきました。

また、11月27日(土)・28日(日)にびわ湖ホールにて上演した、『高谷史郎 演出 明るい部屋』に関連して、演出 高谷史郎さんの所属するアーティストグループ、ダムタイプについてもお話しいただきました。



第3回 舞台芸術基礎講座

〈演出家編〉

日 時 平成23年1月15日(土) 13:00～14:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題 : 「オペラ演出の魅力とは?～音楽と時間～」

講 師 : 三 浦 ^{もとい} 基 氏 (演出家・地点代表)

講義内容 : 2008年に三浦さんが演出されたフィリップ・グラス作曲のオペラ『流刑地にて』の制作にまつわるお話を中心に、演劇作品を数多く手がけてこられたご本人の、演出家という立場から見たオペラ作品の読み解き方、表現についてお話しいただきました。通常、指揮者の操る音楽によって『時間』が支配されるため、『空間』のコントロールに従事することが非常に多いオペラの演出家という立場において、『時間』を牛耳ろうと様々な手段を用いて作品の演出に挑戦された三浦さんの経験談は非常に興味深いものでした。



稽古見学・鑑賞研修・その他

『わくわく☆ドキドキ♥劇場探検ツアー』ゲネプロ見学

日 時 平成22年8月20日(金) 20:00～22:00

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

沼尻竜典オペラセレクション『トリスタンとイゾルデ』関連企画の参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成22年9月18日(土) 14:00～16:00

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮者の沼尻竜典氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成22年10月7日(木) 13:00～18:00

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

びわ湖ホールプロデュースオペラ 歌劇『アイーダ』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成23年1月30日(日) 11:00～13:30

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮者の沼尻竜典氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成23年3月4日(金) 14:00～17:40

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

○ オペラ・ワークショップ

日 時 平成23年3月6日(日) 10:00～11:15

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- 舞台装置や舞台衣裳の解説など。

※ プレトーク・マチネ、オペラ・ワークショップは一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

舞台芸術 公演鑑賞研修

様々な舞台芸術に触れていただくため、びわ湖ホールの主催公演を「オペラ・オーケストラ編」「演劇・ダンス編」「室内楽・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演編」の3ジャンルに分け、各編より1公演ずつ、年間計3公演を観ていただく「公演鑑賞研修」を実施しました。

平成22年度劇場サポーター自主活動の概要

1. サポーターの集い・分科会（ジャンル別）の開催

- (1) 4月17日(土) 分科会（新規サポーターを交えた茶話会）
- (2) 5月9日(日) 分科会（宝塚☆ダンスショーの真髓！～ジャンクション24～）
- (3) 5月23日(日) ハイキング（石田三成生誕450年記念 佐和山城跡探索ウォーク）
- (4) 6月20日(日) 分科会（シンフォニー・器楽/わたしのベートーヴェンはこれ！）
- (5) 7月10日(土) 分科会（オペラ・声楽/歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」
歌劇「道化師」を100倍楽しむ！）
ナイト・サマーパーティー（なぎさのテラス「天使のカフェ」にて）
- (6) 8月29日(日) 分科会（演劇・古典芸能/松竹大歌舞伎を楽しみましょう！！）
- (7) 9月25日(土) 分科会（オペラ・声楽/楽劇『トリスタンとイゾルデ』分科会）
- (8) 10月24日(日) 分科会（フリートーク/サポーター活動の近況を話しあいましょう！）
- (8) 11月14日(日) ハイキング（織山（きぬがさやま）観音寺城跡を歩く）
- (10) 12月23日(木) 分科会（バレエ・ダンス/バレエにおける「古典」VS「トリビュート」
～『シンデレラ』を中心に～）
クリスマスパーティー（なぎさのテラス「天使のカフェ」にて）
- (11) 1月22日(土) 分科会（オペラ・声楽/歌劇『アイダ』分科会）
- (12) 2月19日(土) 分科会（シンフォニー・器楽/もう一度聴きたくなる
名曲・名演を集めて、比べて 楽しもう！！）
- (13) 3月20日(日) 分科会（お茶とお話しのお楽しみ会）

2. サポーター通信の発行

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」は、1998年10月から1999年6月までに創刊準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として昨年までに創刊号～第25号を、そして、今年第26号、27号を発行しました。

3. サポーターメーリングリスト

サポーター同士の連絡・交流用に、メールアドレスを持っているサポーターを登録し、公演の感想やミニレクチャーなどに幅広く活用されています。

平成22年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを生かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、びわ湖ホール劇場サポーター（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで催す公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、お友達に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する基礎講座やワークショップを受講し、知識を深めていただきます。
- 公演内容や運営について、ご自身やお知り合いの方々の感想や反応等をまとめて報告していただきます。
- 劇場サポーター通信の発行や勉強会、交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は約100人、登録期間は3年間とします。任期終了後、1回に限り再応募することができます。（最長任期6年）

4. 平成22年度活動

- (1) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・基礎講座
 - ・鑑賞研修
 - ・舞台稽古の見学、プレトーク等の関連事業への参加
- (2) 舞台芸術の公演鑑賞研修

劇場サポーターの舞台芸術に対する理解を深めるため、びわ湖ホール主催公演をジャンルごとに選択し、鑑賞していただきます。
- (3) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・口コミによるPR活動
 - ・チケット予約の受付

(4) 舞台芸術に関する地域の情報、およびびわ湖ホールにおける公演に関する友人などの感想や反応等の報告

- ・劇場サポーターレポートの提出
- ・活動記録集用の原稿提出

(5) 自主活動

- ・分科会、イベント会などの開催
- ・劇場サポーター通信 (Harmonia) の発行

5. 劇場サポーターの内訳

【期別】

13期	24名
14期	30名
15期	62名

【年齢・性別】

男性	26名
女性	90名

10代	2名
20代	11名
30代	13名
40代	18名
50代	37名
60代～	35名

【住所別】

●滋賀県	82名
大津市	50名
草津市	12名
守山市	2名
栗東市	3名
湖南市	1名
甲賀市	3名
東近江市	3名
彦根市	2名
米原市	1名
長浜市	1名
高島市	2名
伊香郡	1名
愛知郡愛荘町	1名
●京都府	24名
●大阪府	3名
●兵庫県	3名
●奈良県	2名
●三重県	1名
●愛知県	1名

計 116名

劇場サポーターの声

3年間を振り返って

13期 芦谷恵美子

サポーターとしての3年が、本当にあっという間に過ぎようとしています。
基礎講座、分科会、公演鑑賞と、学び感動する場を随分与えていただきました。
サポーター1年目基礎講座の「館内見学」から始まり、思い出はいっぱいです。
大ホールの舞台から客席を見回した気分は、
役者にでもならない限り味わえないもの、サポーターになってよかった！
でも、一步外へ出ると、周りの人たちに
びわ湖ホールのサポーターであることを知ってもらうのにしどろもどろ。
正直言って、びわ湖ホールに好感を持っている人って少ないな～が実感。
私自身、オーケストラを聴きに数度訪れた程度。
道を歩いているといやに上から見下ろされ近寄りたいたい存在だけど、一步足を
踏み入れたら琵琶湖を望む眺望の素晴らしさ！それだけでも知ってほしい。
オペラが敷居が高いものなら、クラシックがとっつきにくければ、
まず「ロビーコンサートに行こ！」、ささやかなサポーター活動の始まりでした。
3年目にもなると、まわりからびわ湖ホールのことをたずねられることも。
思わぬ人がオペラファンだったり、バレエ教室に通っていたり、チラシを渡す
より早く情報を教えられます。共にチケットを購入、公演日までの待ち遠しさ、
当日のワクワク感、客席も一体になれる満足感。
びわ湖ホールからたくさんの感動をもらいました。
滋賀が文化においては都会と言われるよう、これからも
滋賀県立芸術劇場「びわ湖ホール」を、応援していきたいと思えます。

劇場サポーター活動記録

15期 安木聖子

サポーター4年目になりました

3年一区切りのサポーターの2クール目の15期となりました。

昨年までに私は自分の鑑賞スタイルが、演奏のできばえやストーリー・演出を見るというよりも、歌声や音響がどう自分の体に響くか（涙が出るか、リラックスして寝てしまうのか、リフレッシュして活発になるのか）、または絶妙な間合いへの納得感を楽しむスタイルだと気付いたので、今年はどういった所がよかったかを言葉にできるように心がけながら鑑賞していました。こういった場合、現場に身を任せていた方がよく鑑賞できるのかな、と思っていたのですが、意外にも楽譜などをしっかり見ながらのほうがち密鑑賞できることがわかりました。面白い発見です。今後試していつてみようと思っています。

一方で今年も狂言を気楽に鑑賞したのですが、伝統芸能の間合いの絶妙さは際立っているように思います。とてもスカッとします。そちらもまた勉強したいところです。

自主交流会では…

昨年度まで担当していました自主交流会機関紙のハルモニア編集は、新しく世話人に加わってくださった方に引き継ぎまして、今年度は主にパーティーの運営補佐をしました。

夏のパーティーでは余興の企画と景品購入・司会、冬のパーティーでは余興補佐をさせていただきました。両パーティーとも例年通りたくさんの方に参加いただきました。みなさま、新しいお友達作りにお役立ていただけたのではないのでしょうか。今後も、より参加しやすい雰囲気にしていきたいと考えていますので、ぜひご要望をお聞かせください。

世話人のみなさま、参加されたみなさま、ご協力ありがとうございました。

まだご参加いただいていない方、是非一度交流会に来てみてください！

ファンをふやす・・・

ホールのファンを増やすことは、自分とお友達の親密度を上げるのと同じで「なじみ」、「好き」という感覚を与えることが重要だと考えています。そんな折、NPO法人から「地域振興のための寄付金集め案」の創出を求められたので、「びわ湖ホールで結婚式を」という案を出し、中ホールで紹介させていただきました。どんな理由でもよいから一度ホールに足を運んでもらい、アクセスも良くよい公演があると気付いてもらいたい、という発想です。

私個人は「中ホールにピンデビュー」できたわけで、ますますホールが好きになったのですが～、地域の華道サークルの作品発表展や小学生の書道展などにロビーを貸し、地元色を強めてみるもの面白そうです。いかがでしょうか？

「この一年で一番印象的だったこと」

「トリスタンとイゾルデ」公演の際、事前にたび重なる研修会やロビーコンサートなどで、ワーグナーの音楽をより良く理解するための知識や機会を与えていただき、十分に期待とムードが盛り上がった時にびわ湖ホール of 素晴らしい「トリスタンとイゾルデ」を拝見しました。

それまで何十年も「なんと疲れる音楽、何と長々しいオペラ！」と敬遠していたワーグナーですが、お陰さまで、一挙にその魅力に開眼しまして、以来、様々なDVDを見比べたり、テレビ放送やラジオ放送でもワーグナーを探し求めて、、、

この3カ月で一体どれほどワーグナーのオペラを見たりパイロイト音楽祭関連の音楽を聞いたことでしょうか！

身近にいらっしゃるワグネリアンの方々とともに、やはりワグネリアンでいらっしゃる私設スタジオのオーナーの方のご協力を得まして、「ワーグナーのオペラ上映会」を作りました。

今後も皆さんとともに楽しみたいと思っています。

本当にありがとうございました！

Setsuko

劇場サポーター活動記録

2011年1月25日

第15期 岡崎英子

ラ・フォルジュネの開催にボランティア参加と共にサポーター活動2期目の私は溢れんばかりの人の波に驚きと感動を、、、と同時に後悔をしました。理由は簡単、事前にチケット購入せず当日手に入れて鑑賞の予定でした。予定通り会場に到着（開演前一時間）、既に長蛇の列目指すものすべて手に入れることは出来ませんでした。残念無念、、、涙を呑みの私にサポーター先輩が一枚プレゼントを下さいました。ボランティアのご褒美と感謝感謝！！ 成功裏に終わって楽しいイベントでした。あの熱狂の場に参加できて、、今年はず年の失敗を繰り返さないで、、、

“参加するぞ、！！”と決めてます。

嬉しいことに、チケットの購入を依頼してくださる御夫婦が出来たこと、オペラのプレトークマチネ参加してオペラの楽しみ方に興味を持ってくれる人も出来たことです。押し付けではなく自然に興味を持ち納得してびわ湖ホールに足を運んで楽しむ事を経験されると定着したファンになること請け合いです。

とても地道でゆっくりですが、、、4年目に実現できた私流の活動です。一方、難しい解釈、情報はマニアックで経験豊かなサポーターの人たちに自主交流会や会場で教えて頂いて、とても贅沢な音楽鑑賞を楽しんでいます。

そうして23日、従来とは違ったイベントが有りました。4月1日発足の“びわ湖ホール舞台芸術基金”と“未来ファンドおうみ”が寄付を呼びかけるアイデアの発表、講演会がありました。実はお義理で、、、（すみません）サポーター応援団の一人枯れ木も山の賑わい、、、程度の気分でした。ところが堀田さんの基調講演はさりげなく穏やかな話しぶりにとても説得力に富む内容で出かけた甲斐がありました。

20年ほど前に子どもたちのために学校を設立する寄付金集めに奔走、仲間たちと駆けずり回り三年がかりで開校にこぎつけた時の思いがよみがえりました。

志を曲げず人々に理解をして寄付を頂くことは大変です。、、、が、まず一步踏み出すことが大切、、、と改めて実感した一日でした。

今後も沢山の人たちと出会える場に出かけたいと、、、春を待ち寒い冬はしばらく冬眠して、、、。

劇場サポーター活動記録

第14期 吉田遊介

びわ湖ホールで『トリスタンとイゾルデ』や『明るい部屋』などを鑑賞しました。どの公演もびわ湖ホールのクオリティの高い舞台技術で作品を楽しませてもらえました。友人・知人、書店にびわ湖ホールの公演情報のチラシを配布・設置したりしました。びわ湖ホールといえば、オペラやオーケストラのような「高尚な芸術」という印象が先行し、それほど興味のない方には足が遠い場所かもしれません。

しかし、無料のロビーコンサートや低価格で鑑賞できる定期公演、レクチャーコンサートなど気軽且つ楽しめる催しも多いので、びわ湖ホールの魅力に少しでも触れあってもらえるよう今後もPRしていきたいと考えています。今年は昨年に続き「ラ・フォル・ジュルネ」が開催されるということで、琵琶湖畔で芸術を感じられる機会を楽しみにし、また友人・知人も誘おうと思います。

公演ツイッターとして、『明るい部屋』や『Kappa/或小説』の公式アカウントを取って利用されているのは良い試みだと思いました。現在はツイッターやフェイスブックなど、コミュニケーションツールであるソーシャル・メディアが近年非常に注目を浴びています。公演ツイッターはまだ運用過程でまだそれほど広まっていないかもしれませんが、舞台裏や公演の豆知識、舞台芸術に関心ある・ない人に上手く情報発信して活用頂けたら楽しいなと思います。

「物の豊かさから心の豊かさへ」という言葉から久しく、また経済・財政が逼迫する中、滋賀の誇る劇場ホールで芸術の拠点として、びわ湖ホールの存在はある意味重要だと感じています。

劇場サポーター活動 平成 22 年 私の喜び！！

第 14 期 宮田政広

5月のLFJ. (ラ・フォル・ジュルネ) 開催、7月のTACT/FESTIVALびわ湖 開催、10月のワーグナー歌劇「トリスタンとイゾルデ」上演 等々 平成 22 年度のびわ湖ホールは初づくし！で、例年になく舞台芸術分野以外にご興味をお持ちの多くのお客様がご来場になり、ホールはじまって以来の賑わいが各公演であったのではないのでしょうか。私自身、観客として数々のすばらしい初公演を楽しめたことが最上の喜びであることは言うまでもありませんが、劇場サポーターとしてLFJ. やTACT/FES. の開催ボランティアスタッフとして少なからず関わり合いをもたせていただき、ホールの賑わいUP. にお役に立てたことが、この5年間のサポーター活動の中で最高の喜びになりました。今まで願ってもできなかったボランティアスタッフの活動が二つの開催イベントで一気に花開き、お客様と舞台芸術を介して接する中で、そのお好きなお仲間が増え、繋がる輪が大きくなる楽しさ、またそれらの公演から得る感動が倍増したように思いました。今、私は劇場サポーター活動が自分の生活の中で月課として不可欠になり、日月の活力の糧であるように感じています。正に劇場サポーター活動が私の喜びです。

「外野観戦」

15期 高原正成

過去、現在共に、主な行動範囲が、美術系なので、ホールのボランティアの方々の話題に入りにくい状況が続いています。実にマニアックな方々だと、驚きが続いています。美術館とコラボ企画が有るらしいのですが、美術館は展示、ホールは演奏・・・かな、もう一つしっくりこないのは、それぞれの企画上、プロの視野内だからのようにも思います。相互のボランティアが企画に入れば、もう少し観客視線で作れるようにも思います。

ホールの企画で、良いものを演じ、演奏し、県民に良いものを見せる・・・事も大事だと思いますが、県内各所の文化施設が、一様に同様の目的を持っていますが、成功はしていない、と感じるのは、地盤の弱さが有るように思います。

施設が直接広く、県民市民に訴えることは事実上難しく、最近開かれている、ボランティアコーディネーター養成講座など、施設と県民市民の仲介者養成の意味も持つと感じています。

で、実質的なホールのプランで、指導者講習、公開レッスンなどの企画を増やしてはどうでしょうか。大きなホールに大勢の客を呼ぶのも大切でしょうが、小さい部屋でちまちまとした積み重ねも、将来的に無駄ではないと思います。

いかんせん、まだまだ外野観戦の視野ですが、見ているものには一つの案だと思っています。

劇場サポータになって（一年目）

やる気マンマンでスタートしたつもりでした。が、私ができたことは、こんな活動があるんやということを、友達や知り合いに話して広めてきた事ぐらいでした。ただ、歌舞伎を鑑賞できたことはとてもよかったし、びわこホールを今までよりもずっと身近に感じられるようになったことは本当によかったと思っています。サポータの仲間から届くメールを読むのも、楽しみになりました。二年目は、もっとしっかり活動できるようにがんばりたいと思います。

劇場サポーター 活動記録

劇場サポーター 1年目の三谷です。

美しい景観建造物なのに、あまり知られておらず、一般人にはなぜか遠い存在のびわ湖ホール。赤字ときいて、少々助っ人したくなりました。

チラシ配りは簡単でした。よくいく音楽施設周辺の喫茶店にもおいてもらうことにしました。すると、ついでにと他のホールのチラシもおいてくれと頼まれるようになったそうで、喫茶店では入り口にチラシ専用テーブルを用意したとか。ならんでいる様はとても圧巻です。好きな人はどこのホールでも関心あるみたいで、すぐチラシがなくなるそうです。類は友をよぶ時代、だったらいいですね。

さて、自分がみる、聞く段になりますと、チケット予約方法が理解できず、しどろもどろの汗だく。気がつけば、Fax はあまり使ったことがなかったのです。

日頃、なんでもネットですます身ですので、ネットで空席一覧、指定予約できないかと思いました。

また、友人知人はコンビニで予約することも多いので、コンビニでチケット購入、印刷、受け取りができるといいなあと思います。

私的には多忙をきわめた一年で、なかなか時間をつくれませんでした。でも、これで要領はわかりました！

もう1年サポーターをつづけ、今度はゆっくり堪能するつもりです。

びわ湖ホールの魅力

第 15 期 山田勝彦

1. サポーターとしての感想

- ① クラシック音楽の魅力に目覚めた
- ② 広く、友人、知人に、びわ湖ホールの存在感や魅力をPR出来た
- ③ サポーターの特典として有料の演奏を聴く場合、特別価格で聴けるような制度があれば嬉しい（現在友の会の会員です）
- ④ 友人、知人に紹介する場合、サポーターを通じて購入すれば、チケットを安く購入できる等の特典があれば促進しやすい。

2. サポーターとしての反省点

- ① クラシック音楽に対する知識不足
- ② 定期的に送られてくるチラシの配布方法を工夫必要があった。（有効活用の為）

3. 今後の抱負

- ① オペラの知識を深めたい
- ② ロビーコンサートを通してびわ湖ホール魅力を広くPRしたい（声楽アンサンブルを含めて）
- ③ 中島みゆき、葉加世太郎、等々貸会場での演奏も何月何日に演奏があることを伝えたい（その為に月別、年間の公演予定表に貸会場での公演も入れておいてもらいたい）
- ④ びわ湖ホールの活用（小ホール）とPR
自分が習っているよし笛演奏（発表会）で使ってみたい
- ⑤ 素晴らしいロケーションに存在するびわ湖ホールが音楽のみならず非日常のほっとできる空間であることを認識しもっと活用したい（コーヒーショップ等）

サポーター活動報告

第13期 寺本 隆郎

3年間の任期がまもなく終わろうとしていますが、次の3年間も第16期サポーターとして続けさせていただくことになりました。

さて私のサポーターとしての活動は、最初の2年間は毎月送られてくるチラシをどうさばいたらよいのやら思案ばかりしていましたが、ようやく3年目に私の地元・宇治の中央公民館にチラシを設置させていただこうと思いつきました。

宇治市中央公民館は、文化ホール、中央図書館、歴史資料館などが併設されており、宇治市民が多数集まる場所です。そこにびわ湖ホールのチラシを設置すれば多数さばけるのではと思いました。そこでさっそく公民館長にチラシ設置のお願いをしたところ、快く了承してくださいました。

そして案の定、毎月送られてくるチラシ各10部では一ヶ月持たず、今では各20部を設置させていただいております。今後とも継続してチラシを設置させていただこうと考えております。

次に活動といえるかどうか分かりませんが、サポーターになってから足しげくびわ湖ホールの公演を聴きに来るようになりました。従来は京都コンサートホールに10回足を運べば、びわ湖ホールには2、3回といったところでしたが、今では真逆になっています。

以上、活動報告といえるかどうか分かりませんが、報告させていただきます。

私が滋賀県に越してきて、この春で丁度3年になります。
すぐに仕事を始めたある日、初めて行く浜大津で道がわからなくなりました。
ウロウロ運転し琵琶湖岸の道に迷い込んだとき、目の前に立派なホールが現
れました。

それが初めてのびわこホールでした。

初めての土地で知り合いも少なく、好きな音楽の仲間ができたらいいな、と
思いサポーターに申し込みました。

説明会の日にはびわこホールで自己紹介等があり、ホールの前面を占める大き
な窓からの琵琶湖の美しい眺めがとても印象的でした。

滋賀県にこんなホールがあるのか、とびっくりしたものです。

せっかくこんな素晴らしいホールがあるのだから、と、オペラも観て、コン
サートにも来て、あれもこれも・・・とワクワクしましたが、まもなく仕事が
忙しくなり、実際には2回しか鑑賞に行くことができませんでした。

活動も、当初は色々なところにリーフレットを配り、HPにもアップして、と
思っていました、実際コレといったこともほとんどできずに1年が終わろう
としています。

せっかくサポーターにさせていただいたのに、申し訳ないなあ～、という気持
ちで一杯なのですが、でもびわこホールが無くなるわけではありません。

私も滋賀県人としてここにずっと住み続けるのですから、細々とでも、他県の
友人知人にこの素晴らしいホールを紹介し、できるだけ時間を見つけては演奏
会に足を運びたいと思います。

そしてまたいつかこのサポーターに加えていただき、今度はしっかりお手伝い
したいと思っています。

一年間お世話戴いた方々、本当に有難うございました。

サポーター活動報告

14期 川口 美保子

平成23年2月10日

40年程前に日本のオペラ「夕鶴」を見たことはありますが オペラ・オーケストラにはただ聴くだけで 知識の無い私が サポーターに成り 5年になります。その後 さまざまな角度からの基礎講座を出来るだけ 参加をしてきました。プレトークマチネは「オペラ」の背景・解説・はととても勉強になります。会場から出される質問にも感心しています。又 サポーター・OBの報告を読ませていただく度に鑑賞のポイントも教えられます。

見比べ等には1歩が踏み出せなかったのですが 今年オペラの見比べが出来ました。びわ湖ホールプロデュース「ボエーム」とバーデン劇場「ボエーム」です。観世会館・大江能楽堂・コンサートホール「和」「洋」取り混ぜて 主人と出かけました。サポーター関係以外の鑑賞
ピアノコンサート「中村絃子」 バーデン劇場「ボエーム」
観世会館「船弁慶」 びわ湖ホール「第九」
これもサポーターになれたから出来たと思っています。

自主交流会では古典の生字引サポーターOBの歌舞伎の解説、玉三郎の見所。オペラの見比べ・聴き比べ。

若い時に素晴らしい本物を見てほしい願いがある。これも私が昭和35年頃 本物の狂言を見たことが有ったからか。茂山さんたちが全国を回られていた頃だと思う。ガールスカウト・琴を習っている小学生・青少年卒の有る大学生に「メイト」に関しては努めて声掛けをしてきた。特に他県で就職される3・4回生には学生の時間を有効に使ってね
と 力説も。

「歌舞伎」「青少年オペラ」では3世代の取り纏めを頼まれたことが何回かあります。家族が同じ舞台を体感出来るのは素晴らしいこと。 念願が叶った思いです。

仕事で回っていた 美容院・喫茶店・小売業にパンフレットを持って行くのですが その方々とびわ湖ホール「歌舞伎」「ウインナーコンサート」でお会いできてビックリしたことも有り 嬉しいことでした。

以前 サポーターの応募を紹介しました、今は活躍中。
今回も サポーターどう？と紹介しています。

☆ 初心者サポーターのつぶやき

第15期 多比良 典子

サポーターとしての活動報告ですか…

報告するほどの活動はしていないというのが感想であり、反省でもあります。この一年やってきたことといえば、職場にチラシを置かせてもらい、友人・知人に会う機会があればチラシを渡してロコミするのが関の山。実にささやかなものでした。

でも私自身が今までクラシックコンサートやバレエやオペラを観に行ったことがないのに、人にその良さが伝わるんだらうかっていつも思います。

好きだからこそ話に熱がこもるし話し手の熱い想いが伝わってきて、「そんなにいいのなら試してみようかな」って気持ちになるじゃないですか。

オペラの公演を観たことがない私にオペラの素晴らしさは語れないし伝わらない、説得力がないんですよね。

去年初めてサポーターのオリエンテーションに参加したとき、「何だか場違いなところに来ちゃったな」と思いました。13期・14期の先輩諸氏はもちろんのこと、15期の方々もクラシックがお好きな方が多く、自己紹介のときにもそれぞれが熱く語っておられましたから。

私はジャズやフュージョン、軽めのロック、J-POPが好きで、クラシックはたまに聞く程度。サポーターになった動機も演劇が本命で、2月の三浦基氏のワークショップに参加したときは感謝感激雨あられ状態でした。

びわこホールのためというより自分のためのサポーター参加になっていて、少し心苦しい気がします。

でも日本はどうしてクラシックとかバレエとかのチケット代が高いんでしょうね。クラシックコンサートに行かない、いや行けないんです、チケットが高価なんで・・・バレエもオペラも高いですよええ。

海外から有名なオーケストラや指揮者、演奏家を呼ぶのにはお金がかかるから仕方がないでしょうけど、それならせめて日本のオーケストラや演奏家のコンサートはリーズナブルなお値段で観ることができないかしら、と願うのでございます。

気の向くまま好き勝手つぶやいてきましたが、来年度もサポーターを続けてみようかと思えます。活動としましては相変わらずのチラシ配付と口コミですが、来年度は電波を利用してみようかと考えています。

私は趣味でフリートーク講座に通っており、朗読やナレーション・ラジオドラマなどにいそしんでいます。たまーに仲間とラジオドラマを作って地元のコミュニティFMに出たりしていますが、最近ではネットラジオに出たりもしています。そういう機会にびわこホールのインフォメーションを試してみようかと思えます。また3月に草津で朗読の会をする予定ですので、その会場でチラシを配るなどしてみようと思えます。

「サポーター募集」のコラムを見つけたのがご縁、微力ですが少しでもびわこホールのお役にたてますよう努めていきたいと思えます。

サポーター活動を始めて

第15期

長谷川 百合子

平成22年4月からびわ湖ホールより送っていただいている郵送物、E-mailsによりサポーター活動の内容を把握できたかなーと思っています。郵送物により私のびわ湖ホールへの意識（講演内容、各提出期限）はあるのですが、意識より今後はもっと行動すべし、ホールへ足を運ばねばと反省しています。

E-mailsを読んでいる私の感想は、サポーターの皆様はよく聴き、よく観、よく学ばれていることです。よく聴き、よく観ることは、よき演奏家、演出家を得ることにつながると読んだことがあります。

先ずは私も音楽を、聴こう、聴こう、・・・劇を、観よう、観よう・・・

「二期目を終えて」

第14期 殿浦俊明

一期目はとにかくびわ湖ホールを知ること、と思いつく公演鑑賞研修に参加し今まで見たことのなかった歌舞伎、室内楽、オペラなどを見せていただいた。

そして、それまでに見たことのあったコンテンポラリーダンス、バレエ、狂言、演劇、芝居、コントライブなどに加えて、その延長でオーケストラや文楽など見たことのなかったもの、もしくは見たことはあるけどまだ感動したことのなかった「ジャンル」を見てきました。

どのジャンルが面白かったかはさておき、それぞれにファン層が違うというだけでも面白いですし、舞台上の演目を見に行くというよりはそれが行われている文化圏、雰囲気のようなものを門外漢として見に行くという悪趣味かもしれません。今思うとそれがきつとりサーチャー気取りで楽しかったのです。

まだ、能、やミュージカル、演歌コンサート、吉本新喜劇、宝塚歌劇などは見ていないので、今後の課題と思っています。(ほとんどが商業系ですけれど)

もちろんジャンルなどは目安に過ぎず、好きなジャンルと書いていても全然興味を引かないものもあるし、自分が楽しめるだろうものは直感的にわかると思います。

ただ「わかってしまう」のが直感の悪いところで、「見てみると予想外の感動があることもあるだろう。」だいたい劇場に通うようになる人は、知人が「騙されたと思って見てみなさい」と強引に誘われて半信半疑で行って、感動しはまっていくものでしょう。

というわけで、ただ自分の食わず嫌いを「食わず嫌いではない」というためだけに「騙されたと思って見てみなさい。」ともう一人の自分を騙し、さまざまな公演を都合の許す限りしらみつぶしのように見てきたわけです。

そして二期目ですが、特に好きなジャンルだと思っている「ダンス・舞踏」(ジャンルというのはどこまでも細分化するので嫌いになりそうになるが、身体表現中心のものという意味で取っていただけたらと思う)に関しては今までに見たことのない団体の公演、すでに評価されているものを中心にしてみました。新人、アマチュアのものまで見ていたら、本当にキリがありません。

ここでダンスの素晴らしさを一言言わせていただくと、「言語表現がないことによる文化的境界のなさ」です。たとえばロシア語がわからなくともロシアバレエは見ればわかるということです。

それに比べるとオペラは「字幕付」というだけで、敷居を高く感じさせファンを減らしている様にも重いますが、高度な鑑賞術を必要とするだけあり、その声楽とオーケストラ、演出の融合が感じるときの感動というものは素晴らしいのでしょう。

さて話を戻します。「ダンス・舞踏」といってもさまざまな起源を持つ団体、ダンサーがいてそれぞれに特徴というものは出てくるわけですが、ヨーロッパ、アジア、イスラムなど文化圏が違うものがやはり影響は大きいと思います。後は表現の方向性、個人の内面だったり、社会的なものだったり、愛、死、悲劇、、、

この経験から言えることも一言、「感動はなかなか超えることがない」

どれだけ観劇数を重ねようとはじめに感動したものはなかなか超えることができない。

これは見始めて10年にも満たない意見だからかも知れませんが、感動してじゃあもう一度という具合にはなかなか行きませんでした。

なのでぼくはやはりびわ湖ホールで育ったのだと思う一年でした。

ぼくの場合は（皆さんあまり興味がないかもしれませんが）びわ湖ホールで見た rosas（ベルギー）、noism（新潟）この二つが不動の二大巨頭となっています。

残念ながらふたつともびわ湖ホールでは公演がなかったので rosas はあいちトリエンナーレに見に行きました。

noism は今年度は見ていませんが、昨年度、東京と新潟に見に行きました。

びわ湖ホールで見た演目を超えることはなかったですが、わざわざ見に行ってよかったと思えるとてもいい公演でした。

ここまできて「では何がしたいか」ということになるのですが、活動記録集ですから「どう活動しているか」です。

実はぼくはチラシをあまり配ってはいません。配り先がなかなかないので。

では何をしているかという先ほどの「騙されたと思って見てみなさい」という役をやっているのです。

自分自身に対してやっているぐらいですから、友人、知人にもしているのです。

少々煙たがられることもあります。なのでここで学んだことは身の退きの早さが肝心ということです。

無理そうだと判断したらすっと退くことを覚えました。

というところで終わりたいところですが、三期目に向けて一言

「びわ湖ホールサポーター間の交流を大事にしたい」

自宅から遠いこともあってなかなか都合が付かず、自主交流会などに参加できてなかったのですが、実はハイキングにも行きたいのです。

友人、知人を誘うのはサポーターをやっていなくともできることです。

ではサポーターじゃなきゃできないことはなにかと考えるとこれしかないのかなと思います。

皆さんにいろいろ教えてもらいたいし、ぼくにできることがあれば協力したいと思います。

是非よろしく願いいたします。

来年度は noism1 の新作「OTHERLAND」が6月に決定しているようなので、今から楽しみにしております。

それでは劇場でお会いしましょう。

喜び勇んでサポーターにさせていただいたのですが、なつたとたんに体調を崩し、ろくろく活動できなかったことが残念です。とはいえ、サポーターであった3年間の印象を一人の音楽愛好家として徒然に述べてみたいと思います。

まず、びわ湖ホールから眺める景色は恐らく世界のオペラハウスの中で最も美しいのではないかということです。また、びわ湖ホールは、「新国立劇場」にならぶ四面舞台機構を備えた大ホールを持ち、それを活用して「創造する劇場」として「自主製作」を掲げていることが挙げられます。さらに、オペラのラインアップには、オペラ入門講座シリーズ、青少年オペラ劇場、県下巡回公演の教育プログラムなど、教育的観点から素晴らしいものがあるように思われます。日本初の専属団体として「びわ湖声楽アンサンブル」を立ち上げていることも特筆に値します。これらは、初代芸術監督の若杉弘氏の理念の実現によって形作られたものではないかと思えます。

ところで、オペラハウスあるいは劇場の運営は、大きく「経営にかかわること」と「作品にかかわること」の両側面から考えなければならないと思います。

ここで、海外の一流劇場の運営(administration)の例を見てみましょう。

- ・ウイーン国立劇場：劇場支配人→芸術総監督→音楽監督
- ・ベルリン国立劇場：総支配人→芸術監督→指揮者
- ・メトロポリタン歌劇場：総裁→音楽監督→指揮者
- ・ミラノスカラ座：総裁→芸術監督→音楽監督→指揮者

ウイーンの音楽監督(小澤征爾を後継するウェザーメスト)は自身が指揮する演目には決定権を持つが、それ以外の演目については芸術総監督(ホーレンダーを後継するドミニク・マイヤー：劇場支配人を兼務)が持つと記者会見で語っていました。我が国の新国立劇場には、総裁・総支配人にあたるポストはなく、その役割をオペラ芸術監督が担っているようです。同じような統治機構を持つびわ湖ホールの組織命令系統はどうなっているのでしょうか。芸術監督と指揮者を兼ねるホールでは、恐らく、その人の、芸術観・個性・力量と与えられた権限によってホールの運営はかなり影響されるのではないのでしょうか。

経済停滞の続く作今においては、ホール経営の結果責任が厳しく問えるというのが芸術事業の経営の在り方となっているのではないのでしょうか。芸術監督の任命に当たり演目選定の基準を設定し、mandateを明確にしておくことが肝要と考えます。芸術監督の任務(予算、決算、演目と主要スタッフ/キャストの選任など)をウォッチする統治機構を設けて透明化をはかることが望まれるのではないのでしょうか。メトロポリタン・オペラは50%を入場収入で賄い、50%を寄附によって運営しているとのこと。びわ湖ホールの採算はどうなっているのでしょうか。びわ湖ホールを長期的に真価ある芸術劇場に成長させるには、まず透明化を図り、納税者の納得を得ることから始めなければならないと思います。

「作品にかかわること」も「経営にかかわること」との関連で極めて重要です。しかし、紙幅がなく印象を語れませんでした。以上から論点をご推察頂きたいと存じます。

劇場サポーター活動記録

第15期 氏名 武田 明浩

サポーターになって はや1年が過ぎ 活動を振り返ってみると
何もたいした事は出来ていないとは思いますが ただ、
音楽を通じて家族と話す機会が増え、また、ホールで過ごす休日の時間が
今までに比べ格段に増えた1年でした。

何も分からなかった私も幾度と無くホールに足を運んでいると
それなりに わかってくることもあり、それを家族の前で話すと
一応は反応はしてくれています。

宣伝の方もチラシを同僚に配布したり、子供の習い事の教室の先生、
友達に渡してホールに来てもらうよう宣伝しました。

若干名ではありますが 今までオーケストラを生で聞いた事の無い人を誘い
一緒にびわ湖ホールまで足を運び、素晴らしいロケーションと
素晴らしいホールでの空気の振動の心地良さ、迫力を知ってもらう事が出来ました。
今期も、家族などを通じ音楽の輪をもっと広げていきたいと思っています。
そして、自分自身ももっと勉強したく思います。

2つの後悔

13期 伊藤 恵子

旅行が好きです。しかし、実際行って見て、ガイドブックや
口コミと違って びっくりすることもあります。

行って後悔するか？ 行けなかったことを悔やむか？
コンサートもそうです。せっかく行ったのに イマイチ。
迷って結局行かずに終い。後で新聞などの評論を
読み、行けば良かった！

どちらの後悔を選ぶか？ 行く後悔を選びます。

先日 BSでスカラ座の「ドン・カルロ」に感激し、
サポーターの人に話していたら「びわ湖ホールのプロテウス
オペラをやっていたよ。」とのこと。うっかり見逃しました
(若杉さんのヴェルディ日本初演 オペラシリーズへ「海賊」
しか見ていなかった。)

でも、サポーターになり 6年間 皆様方のご助言を得て
びわ湖ホールのプロテウスオペラを楽しめるようになりました。

これからも楽しみます。後悔のないように。
6年間 ありがとうございました。

劇場サポーター活動について

第15期 中村 治恭

4年前に大津に引っ越して来て、近くにこんな素晴らしいホールが有る事を知り、もっと皆にその素晴らしさを伝えるお手伝いをしたいと思い、劇場サポーターに応募しました。

5月の“ラ・フォル・ジュルネ2010”は天候にも恵まれ、お祭りのようにクラシックに触れ合える素敵な時間を満喫しました。今年もまた開催され、その上今回はベートーヴェンがテーマだそうで本当に楽しみです。去年の“ラ・フォル・ジュルネ”は見るだけでしたが、今年は参加して楽しみたいと思っています。翌週の“高島ちさ子”さんのコンサートもユーモアに溢れ、笑いながらバイオリンを楽しむ事が出来ました。

6月には“山下洋輔ビッグバンド”を、最前列で山下さんの真後ろで見る事が出来て感激しました。

7月には“カヴァレリア・ルスティカーナ”を観賞しました。“テルミンレクチャー”も面白かったです。そして、月末の“タクトフェスティバル”が楽しかった。特にデンマーク人のお二人が演じる“ロビンソンクルーソー”では演劇の新たな面白さを発見出来ました。

8月には“劇場探検ツアー”に参加しました。最初一人で見たのですが、あまりの楽しさに家族を無理やり誘ってもう一度見に行きました。

9月には“松竹大歌舞伎”で歌舞伎を初めて見ました。何か敷居が高くて近寄りたがたいと敬遠していたのですが、実際に見て見ると本当に楽しくて今までのイメージがすっかり変わってしまい、京都南座の顔見せなども見に行きたくなりました。

10月には“ダンスの変遷”の講義を受け、その流れで11月に高谷史郎さんの“明るい部屋”を見る機会を得ました。近代演劇を観るのは初めてで、最初は戸惑いでしたが、見るうちに引き込まれてその世界に浸る事が出来ました。

この一年を振り返ると、今まで敬遠していたものにトライする事で自分の世界がグンと広がったように思います。ただ、春に体調を崩した為、見るばかりでお手伝いがほとんど出来なかった事が悔やまれます

数年後には京都会館がオペラホールに生まれかわるそうです。メジャーなオペラは向こうに行くのではないかと危惧しますが、びわ湖ホールにも先駆者としてのプライドが有ります。びわ湖ホールのこの素晴らしさをもっと広く伝えるお手伝いを、これからも微力ながらもさせていただきたいと思っています。

あっという間の3年間

第13期 岡村恵子

光陰矢のごとしと申しますが本当にあっという間にサポーター任期の3年間
が過ぎ去ろうとしています。

その間、びわ湖ホール自体に興味を持ち、舞台芸術を楽しみ、サポーターの方々と
温かい交流を図ることができ、私自信がわくわくしながら様々なことに参加し
ていたように思います。

積極的に活動なさるサポーターの人達の足元にも及ばぬ私の働きぶりではあり
ましたが、それでも世界的に有名な芸術家が（本来なら専門誌や新聞などで
しか写真を見ることができない人が）このびわ湖ホールに来て、本人が間近で
演奏・公演されるのですから、このチャンスを逃すと次回鑑賞する機会はとて
も難しいと思うとテンションも上がります。公演事前研修に参加して、同じ作
品でも演出家によってこんなにも違うものかと驚きました。ちょっとした興味
深い裏話も聞くことができ、サポーター同士で深く幅広く話が弾んだ事もあり
ました。

また、それを身近な人にも話して、喜んでもらいました。

少数ですが、友達から歌舞伎券の購入依頼がありました。多用な予定が立た
ない友人は、私を通さず直接本番の直前に券を購入し、鑑賞した後で「素晴ら
しかったわ」と報告が入ることも……。

今年度「トリスタンとイゾルデ」など、印象深いオペラ鑑賞をしたほか、
7月下旬にジャグリング国際児童青少年芸術フェスティバルのボランティアとし
てお手伝いしました。木下洸希君のパフォーマンスの際、見学者参加の方たち
の人員整理や、パフォーマンスの用具を手渡したり、参加者の赤ちゃんをちょ
っとのあいだ抱いていたりして、無事に楽しく終了したこともありました。

サポーター自主交流会で、初夏の山にハイキングにも出掛けました。私の楽
しそうな様子を見て、新しくサポーターになった友達もいました。

我が家の近くにあるこの『びわ湖ホール』は、私の生活をとても豊かにし
てくれる“打ち出の小槌”です。



素晴らしい環境を持った「びわ湖ホール」での劇場サポーターも
2期目が過ぎました。

私の周りの人々（特に京都・大阪）のびわ湖ホールの認知度
もかなり上ってきた。 「大きいホールらしいネ」「美しいホール
らしいネ」という声は聞いたり、「何か何かホールまで観賞に来て
もらってません。びわ湖を見ながら食事や喫茶はしていいか」...
活動の中心は自分が主宰するカルチャー教室でのアピールや(滋賀・京都)
京都の喫茶店でのパンフレット配布、大阪の教室でのパンフレット配布
が中心です。3期目は出来るだけこの輪をもっと広い範囲の
人々にも広げていきたいと思います。

「ヒストリー・イズ・ア・ソング」がNHKで放送されましたが、もっともっ
とこういう企画や機会を増やしていきたい。多くの人に「びわ湖
ホール」の素晴らしさを知っていただきたいと感じています。

これからも「びわ湖ホール」が日本で一番魅力のあるホールと
全国の人々に知ってもらえる様に少しでも力を出していきたいと思います。

“華”の溢るホールに

第14期 小島 茂

2期目のサポーターの活動を終える時、又今年も多くの方に
びわ湖ホールへ来ていただき、しかも来客が増えたという嬉しい。
「興味はあるけど、行くホカケ」を作ってもらえるのが我々の仕事。

音楽でも演劇でもオペラでもいろいろのジャンルがある中から
一人でも多くの人に見ていただく行動ももっととらなければ。
反省はいろいろあります。何をどうか改善して来客を増やしたい。

来客は自分で好きなジャンルの演劇、歌舞伎で活動の中心を
もっていろいろと見たい。来客はもっと公演産産を増やしたい。

残念なことは、いつも思っている事だが、「びわ湖ホール」の周辺は
殺風景なところ。もっと華やかさや必要では無いが「お洒落」。
この場所は素晴らしい立地条件で、素晴らしいホールは他の地域
では無い。もっといいです。

公演の事前の各ターミナルでのパフォーマンスやアピール活動も含め
周辺一帯が華やかなホールにしたいと常々思っています

2年ほど前の事でした。娘からコンサートのチケットを貰ったのがきっかけで、初めてびわ湖コンサートホールに来る機会を得ました。それからはロビーコンサートにも足を運びそして、サポーターのことを知ったのです。でもサポーターにならせて頂いたものの、他府県から移り住んで日も浅かった私には全く知人も無く、つ手も無くパンプレットの配布も容易ではありませんでした。でも今やっと人との関わりも出来はじめ、最近では快く置かして頂けるところも見つかりました。なによりもびわ湖ホールにオペラやコンサートを聞きに来られる方達との素敵な出会いもあり、つたないながらも説明を添えてパンプレットを手渡しできる喜びを味わっています。

景観の良いホール、楽しいロビーコンサート、煩雑な日常生活の流れの中で心豊かにしてくれる音楽や芸術、そんな環境の中に身をおかせていただけることにとても感謝しています。

コンサートホールをもっと身じかに、もっと気軽に足を運べる機会が多くあればいいのにと、思ってみたりしています。素人の合唱団、コーラス隊などはどうかな～と勝手な思いを巡らせている私です。

サポーターとしてまだまだ力及びませんが人様には押し付けがましくならない様に心しながら、私流で活動させて頂けたらと思っています。

《劇場サポーターの声》

三年間ありがとうございました。

13期(木田 正子)

本当にお世話になりました。 和くればせながら
立派なおペラファンを自称できるようになったのは、ひと
えに、びわこホールと サポーター活動をしてくださるお陰です。
運営についての辛口の見解も、色々書かせていただき
ました。改善していくというスタッフの方々の心意気も、
感じられるようになってきました。

これからひとりのファンとしてびわこホールを愛してい
きます。 本当にありがとうございました。

3年間

発行 **財団法人びわ湖ホール**

発行年月 平成 23 年 3 月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <http://www.biwako-hall.or.jp/>
